

高性能な負荷分散、SSL機能を標準装備 クラウド時代のWebアクセス環境を担う

WebサイトやWebアプリケーションへのトラフィックが急増している。それに対し、アレイ・ネットワークスの「Array APVシリーズ」は、高い処理性能を持つロードバランサとハードウェアSSLアクセラレータを1台に集約。今日のWebサーバーやアプリケーションサーバーのフロントエンドに必要な機能を一括で提供する。さらに数多くのArray APVシリーズ導入をサポートしてきた日立ソリューションズでは、専任エンジニアによる迅速かつ確かなサポートを実施。両社は、緊密な協業によってクラウド時代のWebアクセス環境の最適化に貢献しようとしている。



Array APV9650の性能仕様

スループット	60Gbps
HTTPリクエスト/秒	6,400,000
SSLトランザクション/秒	45,000
同時TCPセッション数(装置全体)	20,000,000
メモリ容量	32GB
クラスタリング	32
筐体向けラックマウント	2U

多機能一体型 ロードバランサとしての優位性

スマートフォンなどのモバイル端末の普及、データの大容量化などを背景に、より重要な役割を担うようになったネットワーク機器の1つにトランザクションを複数のサーバーに分散し、負荷を平準化するロードバランサがある。急増するトラフィックで企業のホームページやオンラインサービスを提供するWebサイト、Webアクセスを前提と

するアプリケーションなどがダウンしてしまうと、企業の社会的信用の失墜、ビジネスの停止につながるからだ。

このロードバランサの分野で数々の導入実績を持つのがアレイ・ネットワークスの「Array APVシリーズ」である。その最大の特徴は、2001年の販売開始当初から、SSLアクセラレータやキャッシュといったWebサーバーに必要な機能をロードバランサに搭載した統合アプライアンス製品であること。このような特徴により、Array APVシリーズは発表当時、画期的な製品として注目を集めた。「複数の機能を集約することで、低コスト、管理性の向上を実現しました。中でも、卓越した性能を誇るSSLアクセラレーションを搭載したことは、多くのお客様に特に高いご評価をいただいています」とアレイ・ネットワークス代表取締役の岡本恭一氏は述べる。

優れたコストパフォーマンスと 安全性の両立

現在、Array APVシリーズはさらに高性能な機器へと進化している。例えば、コンテンツ圧縮機能を標準装備しており、アプリケーションやコンテンツの特性に応じて効率的にトラフィックを制御。インテリジェントな「アプリケーション・デリバリー・コントロー

ラ」として機能する。「性能面では、ハイエンドモデルのArray APV6200は11Gbpsの高スループットを発揮。また、N+1のクラスタリング構成も可能で、Webシステムの可用性・信頼性向上に貢献します」と岡本氏は述べる。

しかも、「SSLアクセラレータは追加ライセンスが必要」というロードバランサ製品も多い中、Array APVシリーズは、全モデルに高速なハードウェアSSLアクセラレータを標準搭載。また、暗号鍵長2048bitにもいち早く対応し、次世代ネットワークに求められる強固な暗号化通信を実現可能だ。「同等性能であれば、より低価格」「同等価格帯であれば、より高性能」な製品となり、低コストと性能、そして、Webサイトの安全性を両立することができるのです」と岡本氏は力を込める。

10年の実績に基づく 信頼性と万全のサポート体制

IT機器の導入においては、サポート体制も気になる点だが、アレイ・ネットワークスは、パートナーと協業しユーザーを手厚くサポート。中でも日立ソリューションズは、アレイ・ネットワークスの国内展開当初から協業を継続しており、10年間のノウハウに裏付けされるサポート力には定評がある。

例えば、Array APVシリーズを熟知

した約15名の専任部隊に加え、東京、大阪、名古屋、九州の主要拠点にArray APVシリーズに詳しいエンジニアを配備。さらに彼らを中心に、アレイ・ネットワークスと、毎週、技術ミーティングを行い、強固な連携体制を構築している。「もしトラブルが発生した場合にも、両社で情報を共有しながら、迅速な復旧を支援します」と日立ソリューションズの秋山 慎一氏は説明する。

加えて、両社の連携で日本市場を重視した製品強化を実現。具体例としては「管理コンソール画面の日本語化、メッセージ内容の改善、様々なヘルスチェック機能の追加など、当社からのリクエストで、日本ユーザーから要望の高い機能を多く取り入れてきた」(秋山氏)という。

こうした点が評価され、日立ソリューションズのArray APVシリーズ取扱実績は700社、2000ユニット以上(2010年12月末時点)にもおよぶ。コストパフォーマンスが秀逸なローエンドモデルが中小規模のシステムに多用されているほか、12,000Req/sクラスのFXオンライントレードなど、大規模ミッションクリティカルシステムにも多くの実績がある。

さらに強化された製品で より大規模なシステムにも対応

クラウド化の進展などにより、Webサーバーやアプリケーションサーバーへのトラフィックは、今後ますます増加することが予想される。それに対し、Array APVシリーズは、さらなる進化でユーザーの期待に応えようとしている。「当初から強かったローエンドに加え、今後はハイエンドでも大きな市場を取っていくべく、新たなフラッグシップモデルを用意しました」と岡本氏と言う。

例えば、最新製品では、マルチコア64ビットCPUに完全対応した「Array SpeedCore」アーキテクチャを搭載。最新CPUや大容量メモリなどのハードウェアリソースを余すことなく存分かつ有効に活用し、各モデルの性能を大幅に向上させている。また、同時期にボックスタイプのロードバランサでは10Gポートを装備し、業界最高レベルとなる60Gbpsクラスの性能を持つモデルも投入予定だ。「今後、増えるであろう、より大規模なシステムのニーズにも柔軟に対応できるようになります」(岡本氏)。

さらに大規模なシステムでArray



株式会社日立ソリューションズ
プラットフォームソリューション本部
ネットワークプロダクト部 部長

秋山 慎一氏

APVシリーズが利用されるようになれば、当然日立ソリューションズの果たす役割も大きくなる。秋山氏は「ロードバランサは性能と信頼性が命。いくら安くてもトラブルが多くては使い物になりません。品質やサポートまで、トータルにお客様満足を向上することが我々のミッションと考えています」と最後に強調した。



アレイ・ネットワークス株式会社
代表取締役

岡本 恭一氏

お問い合わせ先

Hitachi Solutions

株式会社日立ソリューションズ

E-mail: array@hitachi-solutions.com URL: http://www.hitachi-solutions.co.jp/